

幼児が発揮するコンピテンシーに関する研究
—DeSeCo プロジェクトのキー・コンピテンシーを手がかりに—

人間教育専攻
幼年発達支援コース
松下明日香

指導教員 塩路晶子

問題の所在と研究の目的

産業構造の変化や、グローバル化や知識基盤社会への移行などの社会の変容を受け、従来の学力を超えた人間の全体的な能力を含む概念の構築が目指されてきた。これらの能力の多くが、就学以降の児童生徒を対象としており、グローバル化や知識基盤社会などに対応するような幼児の力は明確にされていない。

そこで本研究では、OECD を中心として進められた DeSeCo プロジェクト(コンピテンシーの定義と選択：その理論的・概念的基礎、Definition & Selection of Competencies; Theoretical & Conceptual Foundations)が提唱したキー・コンピテンシーを手がかりとして、幼児が発揮するコンピテンシーの内実を明らかにすることを目的とする。

研究方法

幼児のコンピテンシーを明らかにすることを目的に、以下の調査を行った。

調査方法：インタビュー調査

調査時期：平成 27 年 8 月～10 月

調査対象：保育経験 15 年以上の保育者 6 名

調査内容：4 歳児、5 歳児を対象に、幼児同士や保育者との具体的なエピソードについてインタビューを行った。そして DeSeCo のキー・コンピテンシーと照らし合わせつつ、幼児のコンピテンシーを抽出した。

さらに、インタビューにより抽出した幼児のコンピテンシーが、実際の保育場面で発揮されるのかどうかを、以下の調査により確認した。

調査方法：観察

調査時期：平成 26 年 10 月～平成 27 年 11 月

調査対象：D 市 A 幼稚園の 4 歳児、5 歳児

調査内容：幼児が生活や遊びに取り組んだり、友達や保育者と関わったりする様子を観察、記録した。観察記録から、インタビューにより作成した幼児のコンピテンシーを用いて、コンピテンシーの抽出および考察を行った。

結果と考察

下記の表のように、保育者へのインタビューを通して、コンピテンシーを発揮する幼児の具体的な姿が明らかになった。幼児のコンピテンシーは、DeSeCo が示すものよりも限定的なものもある。例えば、幼児が扱う道具である言語、情報、技術は、生活や遊びの中で触れる具体的なもののみである。カテゴリ 3 の大きな展望も、取り組んでいる遊びや、毎日繰り返される生活の流れなど、幼児が見通しを持てるのは短い期間についてである。また、幼児のコンピテンシーも、DeSeCo のキー・コンピテンシー同様、文脈に応じて発揮された。

保育観察からは、実際の保育場面においてもインタビューから抽出した幼児のコンピテンシーが発揮されることが確認された。記録分析を通して、

幼児がコンピテンシーを発揮するのは、幼児自身が欲求を抱いており、それが叶っていない状況であるという傾向が見られた。

DeSeCo のコンピテンシー	幼児のコンピテンシー
カテゴリ-1 相互作用的に道具を用いる	
1A 言語、シンボル、テキストを相互作用的に用いる能力	体験したことを言語化する
	素直な気持ちを伝える
	考えを言葉で説明する
	適切な言葉で説明する
	理由をつけて説明する
	他者を尊重する言葉で伝える
	自分の思いを主張する
	言葉で自分の状況を伝える
	状況を的確な言葉で伝える
	要求を伝える
	話し合う
	他者を尊重する言葉で話し合う
	質問する
	依頼する
	目標を実現するために戦略的な言葉を使う
	言葉を効果的に用いて、自分の行動を伝える
	言葉に感情を込める
	相手の意見を理解する
	呼びかける
	適切な言葉で他者のよさを褒める
	注意を促す
	教える
	感謝を言葉にして伝える
	悪かったことを言葉にして謝る
	声をかけて励ます
	指示する
絵を用いて伝える	
文字を用いて伝える	
1B 知識や情報を相互作用的に用いる能力	プロジェクトについての情報を集める
	周りの様子を観察する
	適切な情報源にアクセスする
	状況を整理し理解する
	見たり聞いたりしたことから予想する
	情報を共有する
	分からないことを明らかにしようとする
	経験したことを、目の前のことに当てはめる
知識を他者やプロジェクトのために用いる	
既知の問題解決方法を活用する	
1C 技術を相互作用的に用いる能力	貼り紙を用いる
	手紙を用いる
1C'	イメージを持って作る
	目的に合わせた道具を選択する
	道具、材料、その使い方などを調整する
	工作などの技術を使って、プロジェクトに必要なものを作る
	工作などの技術を他者のために使う
目的に合わせた道具を作る	
カテゴリ-2 異質な集団で交流する	
2A 他者とのいい関係を作る能力	相手の気持ちを想像する
	相手の気持ちを理解する

2A 他者とのいい関係を作る能力	相手の気持ちを理解し、尊重しようとする
	自分の言動を振り返り、反省点を認める
	他者に配慮する
	他者と友好的な関係を築く
2B 協力する能力	他者との繋がりをを感じる
	イメージを共有する
	他者と楽しさや達成感などを共有する
	他者と目的を共有し、協力して活動する
	他者の役に立とうとする
	役割を見つけ協力する
	戦略的な協力関係をつくる
	協力を求める
	交渉する
	より良くするために提案する
	相手の意見を受け止める
	物事を客観的にみる
	模倣する
双方が納得できるような方法を選ぶ	
2C 争いを処理し、解決する能力	対立を調整し、進んで解決しようとする
	自分の力では変えられないことを考慮して、対処する
	譲歩する
	優先順位をつけて、対応する
	公平な判断をする
	問題提起をする
カテゴリ-3 自律的に活動する	
3A 大きな展望の中で活動する能力	行動の結果を想像して、自分の行動を選択する
	遊びの大きなプロジェクトの中での自分の位置を確認する
	ルールを守る
	ルールを作る
	生活の流れの見通しを持つ
	起こりうる良くない結果を想像し、それを回避する手立てをとる
3B 人生計画や個人的プロジェクトを設計し実行する能力	目標を定める
	目標を定めて取り組む
	目標に向かって戦略を練る
	必要な人やものを集める
3C 自らの権利、利害、限界やニーズを表明する能力	全体にとって必要な役割を知り、それを担う
	結果を振り返り、次の成果を計画する
3C 自らの権利、利害、限界やニーズを表明する能力	遊びの大きなプロジェクトの中での自分の権利を主張する

今後の課題

観察場面を増やし、幼児のコンピテンシーを精査すること、および保育現場での活用を視野に入れ、幼児のコンピテンシーが引き出されるような環境や保育者の関わりに焦点を当てた分析をすることを今後の課題とする。

引用・参考文献（一部）

ドミニク・S・ライチェン、ローラ・H・サルガニク編著、立田慶裕監訳『キー・コンピテンシー国際標準の学力をめざして』明石書店、2006